



社会福祉法人岡山こども協会【OKK】 とよた保育園  
赤磐市松木 549 TEL 086-995-0244  
令和7年6月2日発行

323号

## とよた保育園にきて驚き

とよた保育園にきて早2ヵ月が経ちました。こどもたちとも打ち解けてきて、「實盛さん、おはよう!」、帰る時には「また明日ね」と声をかけられることも、日に日に増えてきていて嬉しいと思います。

とよた保育園に来て感じたことが2つあります。

一つはこどもたちがとても生き生きと遊んでいること。「今日はどこで遊ぼうかな」と自らこぐま山やのはらの部屋地下、中央遊具など様々な場所で遊びを楽しんでいます。毎日園内のいたるところで、こどもたちの楽しんでいる姿が見られて、素敵だなと思います。

もう一つは人と人とのつながりがあることです。「Aさんおはよう」と朝来た保護者が園の同じクラスの子に挨拶している姿を見て、保護者もこどもたちと繋がっているんだなと感じました。こどもたちもクラスを越えて関わる姿があります。にじ組に他のクラスの友だちがパジャマの着替えの手伝いに来て、「Bさん今日も可愛いね」と声をかけ関わりを楽しんでいる所を見て、温かさが溢れているなと感じました。様々な人とのかかわりの中で大きくなるこどもたちは、そういった存在を見本にして、自然と大きくなるんだなと感じました。

素敵な園で、もっとみんなと楽しいことをしていきたいと思う毎日です。

實盛 将起



TOYOTA OKAYAMA

とよた保育園公式ホームページ  
<https://toyota.okayamakodomokyoukai.jp/>

### お知らせ

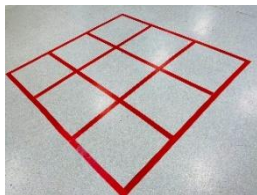
吉富結衣(つくしグループ)が体調不良のため、しばらくお休みをいただきます。

つくしグループには、山崎祐美子が入ります。

**これ、おすすめです！**

## 『3歳児からの室内あそび』

もうすぐ、梅雨シーズンですね。外で遊べる日が少なくなるこの時期におすすめの室内あそびを紹介します。



雨の日でも、身体を動かして遊びたいですよね。そんなときにおすすめなのが、「9マス鬼ごっこ」です。

- ①床に 3×3 の 9 マスの枠をテープで貼る。
- ②鬼と逃げ役に分かれて、それぞれマスの中に入る。
- ③合図で 1 マスずつジャンプして移動する。
- ④鬼と同じマスに入るとアウトになり、鬼を交代する。

簡単なルールになっているので、家族みんなで楽しめるあそびです。

## 【参観日】

## 行事報告

5月14日（はなゆき組・にじ組）、15日（たんぽぽ・つくしグループ）に参観日がありました。普段とは違う雰囲気緊張する子もいましたが、友だちや保育者との関わりを見ていただくことができました。

また、クラス懇談会では、保護者の方同士でお話していただく時間もあり、情報交換をしながら、交流を深められる場となりました。お忙しい中、ありがとうございました。

渡部 加奈



# 今月のベストショット

はなゆき組



にじ組



みんなでぶらぶら

めだかの学校、参観中

たんぽぽグループ



つくしグループ



仲良しだんご屋さん

虫をつかまえるには…



## 声を聴く-対話する-

「声」とは、「音声」としての「声」に限定されるものではありません。無意識に表出されるほほえみも、自然に出てくる不快の表情も、描画や造形作品に込められたイメージの世界も、すべて大切なこどもの「声」なのです。

—『保育の中の子どもの声』加藤繁美著 より抜粋—

このコーナーでは、こどもの“声”の奥にある感じとり、こどもと大人、こどもとこどもが対話したエピソードを掲載します。

### 「雑巾がけしなくちゃだめ？」

おやつ後、そら組が雑巾がけをするのが日課となっています。しかし、みんなが雑巾がけを始めても、保育室に入ろうとせず、テラスで過ごすCさん。保育者が様子を見ています…

Dさん「Cちゃん、雑巾がけしてよ」

Eさん「そうよ、そら組の仕事よ」

Cさん「雑巾がけしたくない。だって疲れるんだもん」

確かに、雑巾がけは疲れる仕事です。Cさんの思いに触れたDさんは、

Dさん「だったらさ、ほうきで掃いてくれる？」

Cさん「それならできそう！」

Fさん「わたし、机拭いとくよ」



そら組になり、保育園で1番大きなクラスとなると、“そら組なんだから”と思われがちです。でも、“雑巾がけをしたくない”というAさんの思いに触れた時に、一旦、「そら組なんだから」と雑巾がけすることを押し付けたものの、Cさんの様子から、他にも保育室を綺麗にする方法はあるかな？と考えた2人。そして、他の子たちも“だったら、わたしはここしとくね”と机を運んだり、全員の雑巾を用意したりと、役割を分担して掃除を進めている姿に、友だちを思いやる温かさを感じました。

渡部 加奈